

医療の未来をつくる全国からの声

診療所探訪



伝統を守りながら、時代のニーズに応え “求められる”診療所に

2014年10月取材

奈良県御所市
医療法人 榎本医院 院長
榎本 泰三 先生

江戸期の開業以来、周辺住民の健康を支えてきた榎本医院。2007年に同院の7代目院長に就任した榎本泰三先生は、連続と受け継がれてきた同院の伝統を守りつつ、自身の専門を生かしながら、刻々と変わる医療環境に対応した診療所づくりに取り組んでいます。

日本大腸肛門病学会の認定施設として高度な医療を提供

済生会奈良病院や土庫病院大腸肛門病センターで研鑽を積んだ榎本先生は、大腸・肛門疾患のエキスパートです。医院継承後も、自身の専門分野を生かして、最先端の医療を提供しています。また、同院は県内に4カ所しかない日本大腸肛門病学会認定施設の中で唯一の診療所でもあります。このため、御所市内だけでなく、近隣の大淀町、下市町、五条市などの診療機関から紹介されてくる患者さんもおおいそうですが、「増加傾向にある大腸がん、さらに肛門疾患の検査をためらう患者さんはいまだに多いです。その点、気軽に受診できる診療所が貢献できる部分は少なくありません。もっと活用していただきたいですね」と、榎本先生は関連疾患の早期発見・治療のためにも、より積極的な受診を呼び掛けます。



大腸内視鏡検査を年間550件以上、胃内視鏡検査を約750件実施しており、いずれも周辺地域ではトップレベルの件数を誇ります。

どんなシーンでも患者さんに満足してもらいたい



1863年、天誅組総裁であった吉村寅太郎の傷を治療した記録も残る同院。その治療を担った2代目、榎本住先生はわが国の女医の草分け的存在と言われています。写真はその当時に使用されていた、往診用の籠を復元したものです。

専門医療を提供する一方で、同院は以前から奈良県立医科大学の循環器や消化器の専門医が定期的に外来を担当するなど、かかりつけ医としての機能の充実も図ってきました。また、同大学や榎本先生の出向先でもある済生会御所病院や土庫病院などとの連携体制も万全です。「診療の本質は病気の治癒にあるのは当然ですが、地域医療を担う以上、慢性疾患を抱えた寝たきりのお年寄りへの対応やがんによる終末期医療など、どんなシーンでも患者さんに満足していただくための体制づくりが必要です」と榎本先生。さらに、周辺地域は人口減少、少子高齢化が顕著であり、通院できない患者さんも増えています。そんな中でも「長年、住民の皆さんの健康を支えてきた医院として、しっかりサポートしたい」と、訪問診療や訪問看護に加え、介護サービスなども実施しています。

診療レベルとともにサービスの向上を

「古くから続く診療所ということもあり、地域の皆さんから信頼していただいています。時代とともに医療も患者さんも変わります。伝統を守りつつ、当院も変わらなければいけません」と語る榎本先生が院長就任以来、注力してきたのが医院としてのサービス向上です。接遇を含めたスタッフのスキルアップのため、院内勉強会などを毎月開催してきました。「特に初診の患者さんは、自身の病気だけではなく、当院の仕組みや構造が分からず不安は多いはずですから、付き添って案内するなど、より親切な対応をスタッフに心掛けてもらっています」。高度な専門医療の提供、かかりつけ医としての懇切丁寧な対応を両輪として「また来たい、わざわざ足を運んで診てもらいたい診療所」をめざす、榎本先生の取り組みは続きます。



1階の待合室には患者さんから贈られた絵画などが飾られています。「ハード面の更新はなかなか難しいのですが、将来的には新築して、さらに設備面の充実を図りたいと思っています」と榎本先生。